

# 村上市景況調査報告

平成29年10～12月期の実績と平成30年1～3月期の見通し

調査時期：2017年12月中旬～2018年1月上旬

調査対象：村上市内事業所 200社 有効回答数 141社（回収率70.5%）

〔業種別内訳〕 卸売・小売業62社、建設業41社、製造業30社、飲食店・宿泊業21社、サービス業46社  
〔地区別内訳〕 村上地区104社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区19社、山北地区23社

実施機関：村上市商工観光課

村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会

分析機関：村上商工会議所

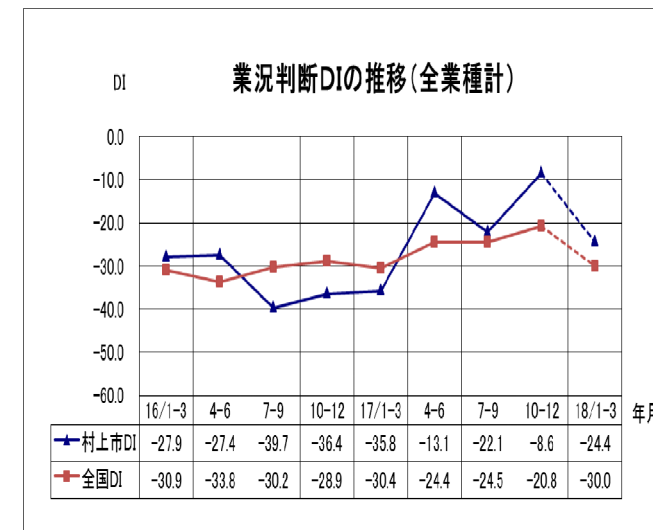
全国状況：全国中小企業動向調査結果【小企業編】（2017.10～12実績、2018.1～3見通し）

日本政策金融公庫 総合研究所

DI = 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合（売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。）

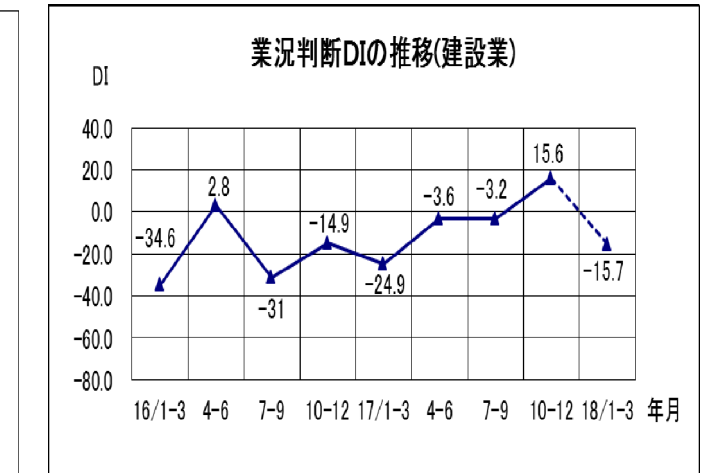
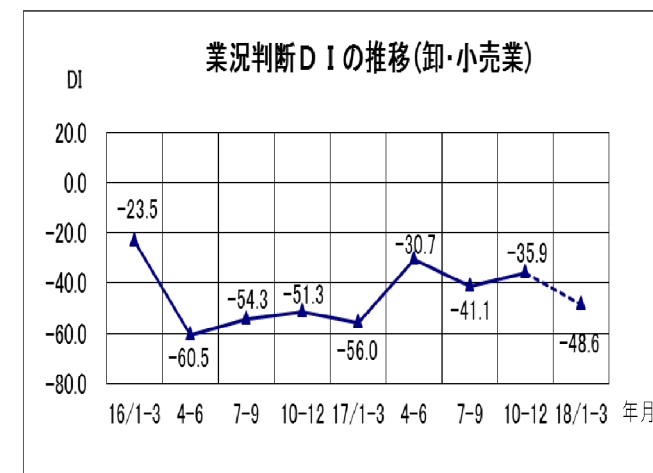
## 『持ち直しの動きが広がりつつあるが、先行きに懸念も』

### 村上市の業況

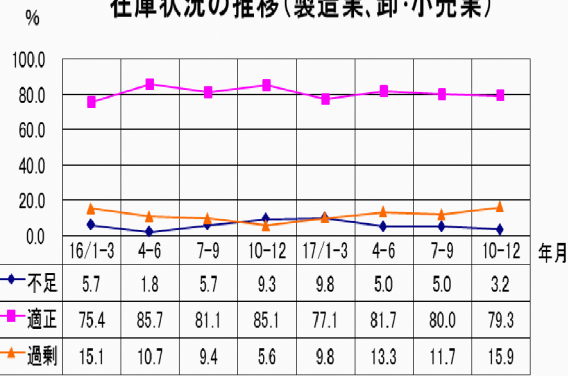


今期(17/10～12月期)の業況判断DI(全業種計)は、前期(17/7～9月期)に比べ、13.5ポイント上昇し、8.6となった。1桁マイナスまで改善したのは15期(四半期)振り。前期における今期予測より12.6ポイント上回り、前年同期比でも27.8ポイント上回った。DIが改善した要因は、飲食・宿泊業を除く全業種でDIが上昇したため。

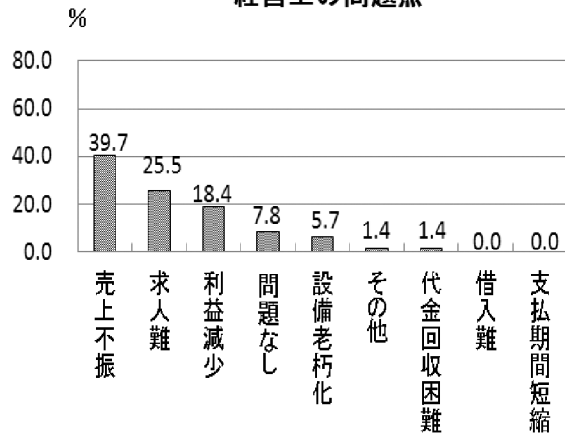
来期(18/1～3月期)については15.8ポイント低下し、24.4となる見通し。卸・小売業、建設業、サービス業でDIの低下が見込まれている。積雪の影響や公共工事の減少、人手不足による受注機会の損失・人件費の上昇、原材料費・燃料費上昇による採算の悪化、コスト増加分の価格転嫁の遅れなど懸念材料があり、留意していく必要がある。



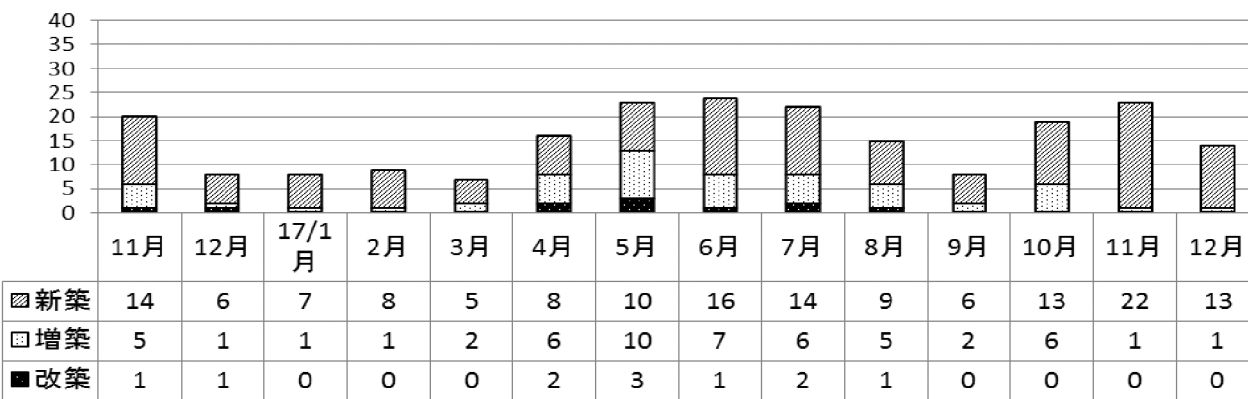
### 在庫状況の推移(製造業、卸・小売業)



### 経営上の問題点

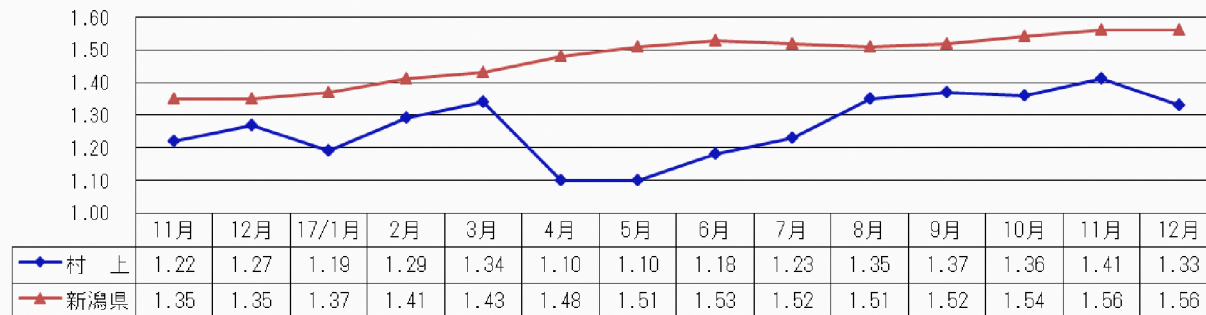


### 建築確認申請・工事届件数



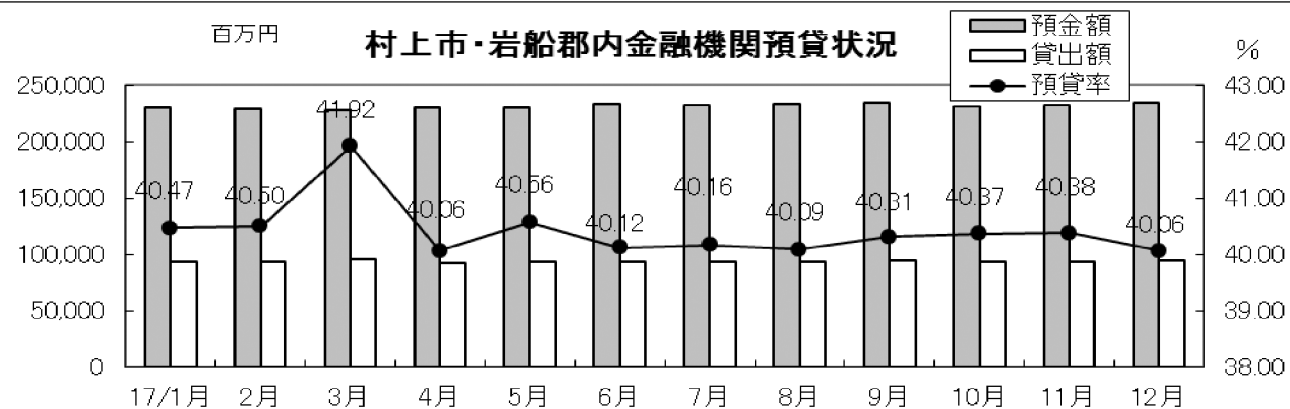
本データは、新築・増築・改築の申請があった建築確認申請(民間受付含む)と工事届の合算となります。

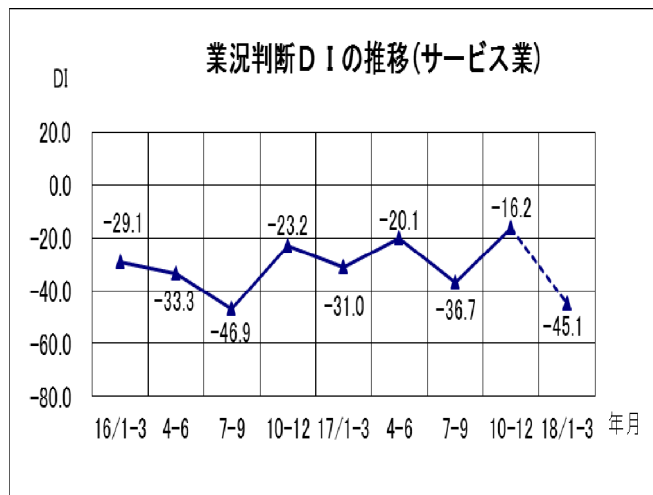
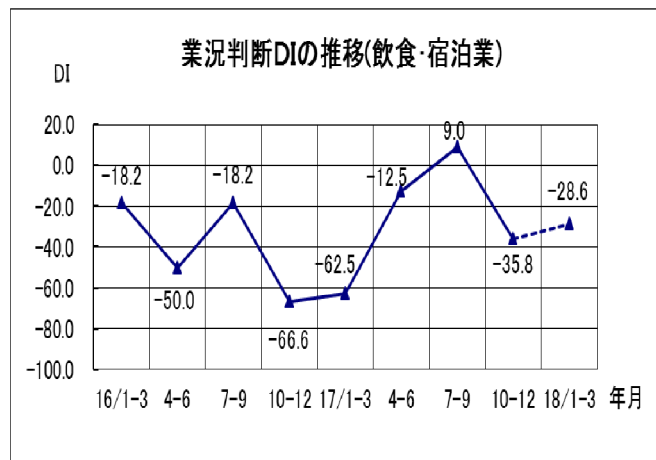
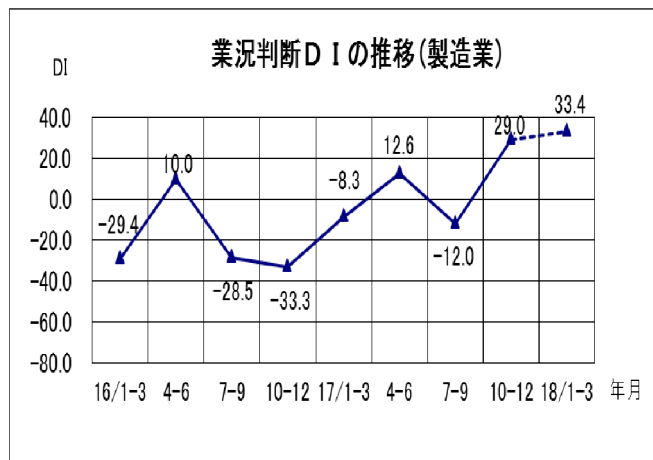
### 村上職安管内有効求人倍率(パートを含む全数)



上記有効求人倍率は、季節調整値再計算により改訂した数値を記載しています。

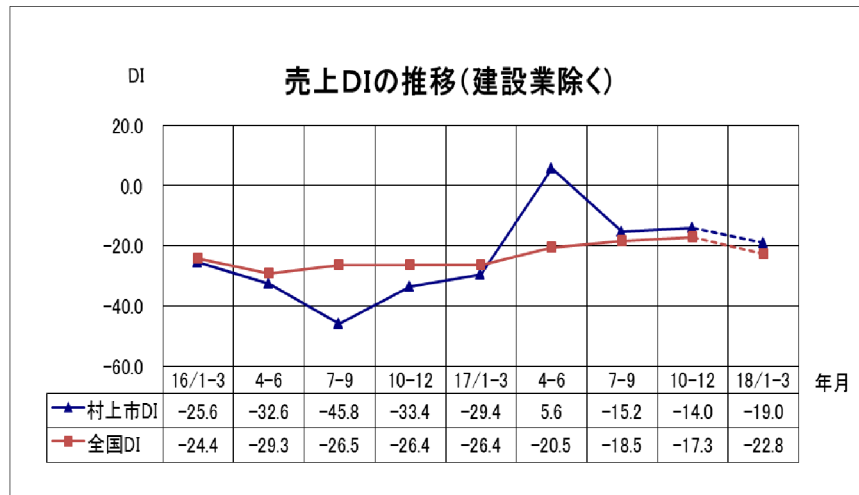
### 村上市・岩船郡内金融機関預貸状況





今期の業種別業況判断DIは前期比で、卸・小売業が鮭製品の売上好調やふるさと納税の返礼品増加等で5.2ポイント、建設業が受注確保・売上増加等で18.8ポイント、製造業が航空機部品製造業でモデルチェンジへの対応を見据えた生産拡大等により41.0ポイント、サービス業が20.5ポイント、それぞれ上昇した。一方、飲食・宿泊業においては宿泊が振るわず44.8ポイントの大幅低下となった。

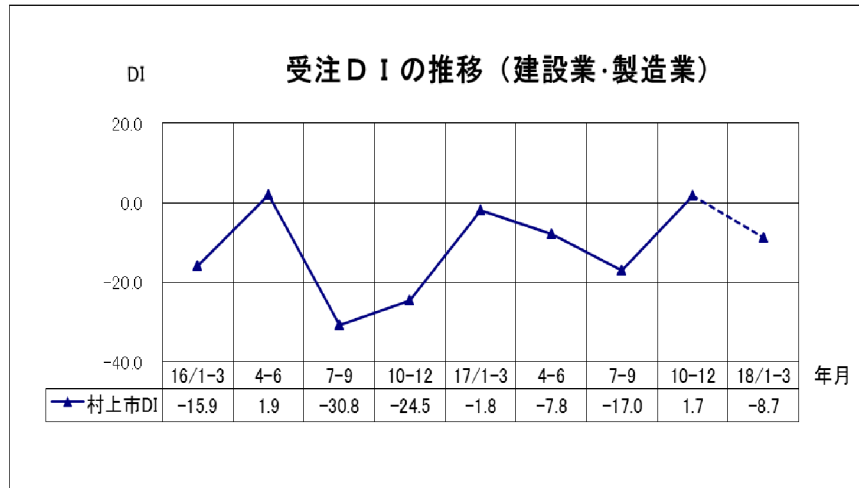
来期については製造業と飲食・宿泊業でDIが上昇し、他の業種で低下する見通し。寄せられたコメントに「油の高騰で仕入価格が上昇(卸・小売業)」、「公共工事減少、先行き明るい材料なし(建設業)」、「主要得意先受注回復予定(製造業)」、「新年会・歓送迎会に期待(飲食・宿泊業)」、「年度末のため受注がない(サービス業)」等があった。



今期の売上DI(建設業除く)は前期比1.2ポイントの上昇で14.0となった。前期における今期予測よりも4.4ポイント上回り、前年同期比でも19.4ポイント上回っている。

全国DIも、前期から1.2ポイント上昇し17.3となった。

来期については、5.0ポイント低下し19.0となる見通し。全国DIも、5.5ポイント低下し22.8となる模様。

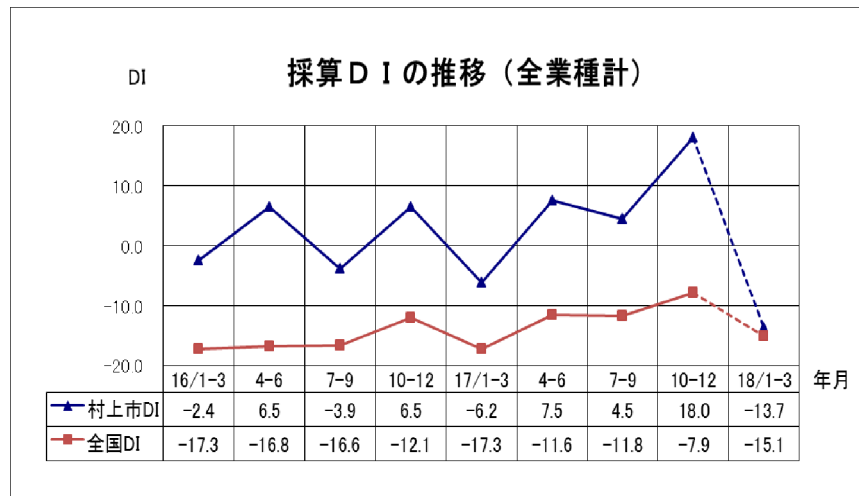


今期の受注DI(建設・製造業)は、前期に比べ18.7ポイント上昇し1.7となった。プラス圏域に入ったのは6期振り。前期における今期予測よりも18.4ポイント上回り、前年同期比でも26.2ポイント上回っている。

来期については、10.4ポイント低下し8.7となる見通し。

DI内訳

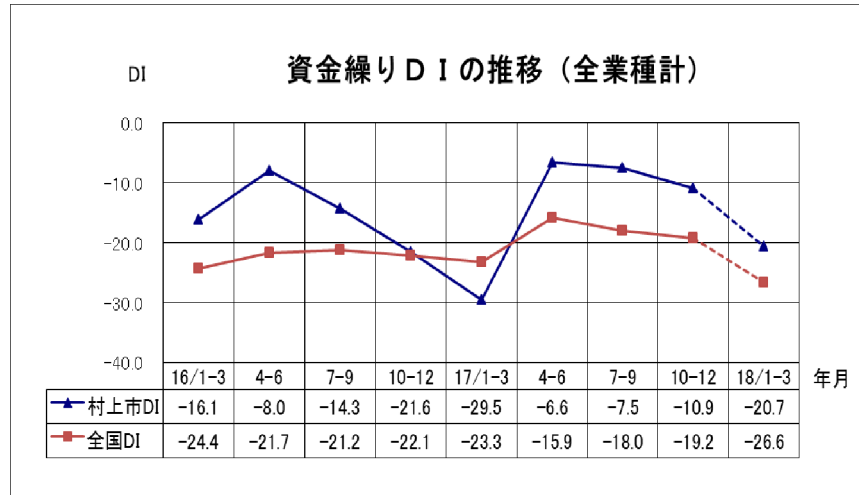
|     | 前期   | 今期  | 来期   |
|-----|------|-----|------|
| 建設業 | 13.3 | 3.2 | 21.8 |
| 製造業 | 18.2 | 8.7 | 16.0 |



今期の採算DI(全業種計)は、前期比13.5ポイント上昇し18.0となった。前期における今期予測より12.8ポイント上回り、前年同期比でも11.5ポイント上回った。ここ8期(四半期)、一進一退が続いている。

全国DIは、3.9ポイント上昇し、7.9となった。

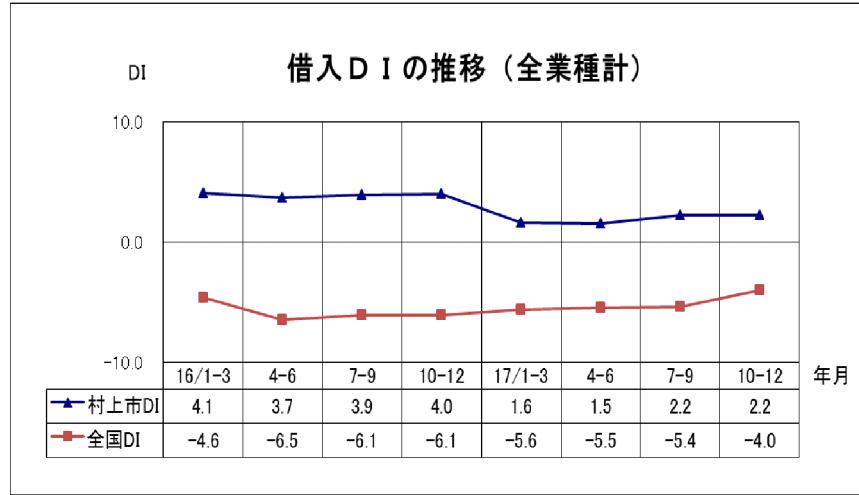
来期については、31.7ポイントの大幅低下で13.7になる見通し。全国DIも、7.2ポイント低下し、15.1となる見通しである。



今期の資金繰りDI(全業種計)は前期比3.4ポイントの低下で、10.9となった。ただ、前期における今期予測より4.2ポイント上回り、前年同期比でも10.7ポイント上回っている。

全国DIも1.2ポイント低下し、19.2となった。

来期については、更に9.8ポイント低下し20.7となる見通し。全国DIも7.4ポイント低下し、26.6となる見通しである。



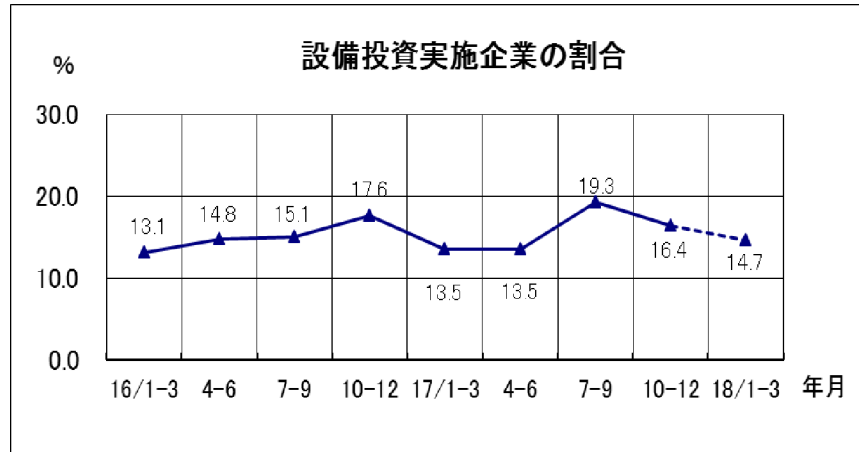
今期の借入DI(全業種計)は、前期と横這いの2.2となった。プラス圏域は11期連続。

内訳は以下の通り

「容易になった」  
前期 3.7% 今期 5.8%

「変わらない」  
前期 44.0% 今期 36.7%

「難しくなった」  
前期 1.5% 今期 3.6%



全業種における今期に設備投資した企業の割合は、前期と比べ、2.9ポイント低下し、16.4%となった。前年同期比でも1.2ポイント下回っている。

来期に設備投資を予定している企業の割合は、更に1.7ポイント低下し14.7%となる見通しである。